

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○分かりやすい発問により、基礎・基本の知識・技能の定着を図る。  
○児童の学ぶ意欲を引き出し、自ら考え、主体的に判断・行動できる力を育てる学習指導の充実・改善を図る。

阿南市立椿泊小学校  
「学力向上実行プラン」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 教務主任・4・6年 担任 村上 悦久	委員 校長 清水 一人 2年主任 松井 梓
----------------------------------	--------------------------

校長  
清水 一人

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○音読・漢字の書き取り・計算練習を繰り返し行うことにより、基礎的・基本的な力はつきつつある。 ●長い文章を正確に読み取ったり、身に付けた知識等を関連付けたりすることに課題がある。	・文章を読んで、その内容を正確に理解することができる。 ・学習の過程を通して習得した知識が、既習の知識と関連付けられ、他の学習の場面で活用することができる。	・何が書かれているかを捉えさせるため、教科書にアンダーラインを入れさせる。 ・少人数のメリットを生かし、個別指導を徹底する。 ・発問を工夫し、習得している知識や技能を生かす場面を設定する。	・身に付けた知識等を用いて課題を解決させる学習活動の場面を増やす。 ・とびうおタイムを活かして、普段つまづいている学習内容(計算問題)を重点的に出題する。	・アンダーラインを入れさせることで効果に内容を捉えることができた。 ・個別指導に力を注いできたが、職員の数も少ないため、個別指導の徹底までは至らなかった。 ・工夫した発問は多くの場面でできた。しかし、児童の表現方法に偏りがある。	身に付けた知識等を表現するために、書く活動の機会を多く取り入れる。また、単に文章に書くだけでなく、思考ツールなどを積極的に活用することで、児童の考え方や表現方法を広げていく。

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○朝会でのスピーチ・他校との交流や学校行事等において、自分の考えを発表することができるようになってきた。 ●とっさの場面でも筋道を立てて話せるようにする。	・目的に応じて、根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えを豊かに表現できる。 ・友達の考えを尊重し、比較しながら、自分の考えを広めたり深めたりできる。	・タブレットの活用、話し合い形態の工夫、表現の機会の確保など言語活動の充実を図る。 ・ICTを活用し、他校児童と意見を交換する場を設ける。 ・児童の思考の流れを作るためにICTを活用する。	・朝会時のスピーチで、質問・感想タイムを設けることで、伝え方を工夫しようとする意識付けを図る。 ・学校行事ごとに、児童が感想を述べる機会を設ける。 ・タブレットの有効的な活用方法を児童に伝える。	・友達のスピーチや発言に対して、進んでリアクションや返答、質問をする様子が見られ、一連の流れとして身に付いた。 ・授業時間ももちろん、休み時間にもタブレットを使用し、操作に慣れ思考の流れを作ることができた。タイピング練習もほぼ毎日実施できた。	より分かりやすく伝えるための表現力の育成を図っていきたい。情報を比較・整理してまとめる力の育成を目指したい。タブレットの仕様を自分たちで判断し、必要に応じて、活用できるようにする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題に対して興味・関心を持ち、一生懸命に問題解決を図ろうとする。 ●自主学習の質の向上が課題である。 ●学校(児童)評価で「家で自分から進んで読書や学習をしている」のポイントが低かった。より良い読書の習慣が身に付くようにする。	・主体的に学習に取り組むことができる。 ・自主学習のやり方を確認し、工夫した学習をすることができる。 ・家庭や休み時間にも自分から進んで読書をすることができる。	・教師が自主学習の仕方を指導したり、児童間でノートを紹介し合ったりさせる。(工夫を凝らした自主学習ノートを背面黒板に掲示する。) ・学校図書館サポーターと連携し、図書コーナーを設置し、図書の紹介や感想文の掲示などを行う。	・自主学習用のノートの使用方法について、様々な例を提示する。 ・低学年は絵本から文字量の多い本を選んで読む。高学年は、読書冊数よりより質の高い本を選んで読む習慣の定着化を図る。	・異学年間ではできなかったが、学級内で自主勉強の仕方を紹介したり、ノートを交換し合ったりした。 ・図書館サポーターと連携を深められた。 ・児童の好む種類や、校内に少ない種類の本を職員間でよく話し合い、購入することで、児童の読書の幅を広げられた。	異学年間でもノートの紹介・交換の取組を行う。また、読書については、上学年が下学年の児童に対し「読み聞かせ」を行う機会を作る。そして、更なる図書コーナーの充実を図る。

令和5年度 学力向上ロードマップ

